

生き活きの素

5

「機械式」に頼らない入浴ケア

「普通のお風呂にゆったり入る」を支援するのが、私たちの入浴介助です。



檜の香りが入る人の心身を癒す個浴と大浴槽。

グループホーム響に設置されている陶器製の浴槽。

デイサービス「響」には檜の浴槽が、またグループホーム「響」には陶器の浴槽があります。二つのお風呂とも温泉のような雰囲気がありますが、特徴はそれだけではありません。どちらもリフトなどの機械は設置されていません。でも脳卒中などで片マヒとなった方々が、ゆったり、のんびりとお風呂に入っています。その介助の基本となるのが、本来、ご利用者様がもっている身体機能を引き出す、という視点と技術です。残っている機能を存分に活かす介助。そして、「立つ」「座る」といった基本的な動作を引き出し、活かしていく介助。普通にお風呂に入ることが、何よりもご利用者様の「リハビリ」につながります。

生き活きの素

6

「遊びリテーション」というプログラム

遊びで「夢中」になってください。
楽しい思いが
「心」と「身体」を自然に動かします。



デイサービス響とグループホーム響では、プログラムの中に遊びを取り入れたレクリエーションの時間を設けています。風船バレーや玉入れ、ボーリングなど様々な“競技”が行われます。初めのうち「子どもっぽい」と参加をしづんでいた方も、いつの間にかレクの輪に入り、夢中で風船を追いかけたりしています。夢中になったときのご利用者様の表情は、驚くほど「生き活き」です。遊びを通して「夢中」になってもらうこと。夢中になる楽しさが、自然と心を弾ませます。心が動けば身体も動きます。



午後のレクリエーションでは、風船バレーや的当て、物送りゲームなど、みんなで楽しめるゲームで盛り上がります。